

2024 年度卒業時アンケート調査結果（学科別比較）

回答率：幼児教育(65/67 件:**97.0%**)、美術(60/67 件:**89.6%**)、ビジネス実務(83/83 件:**100%**)

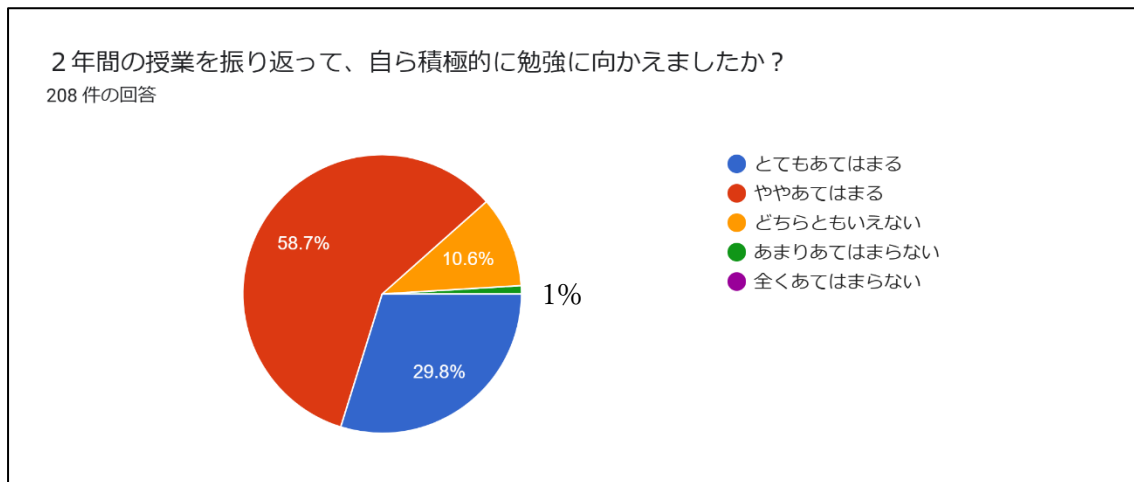
全体の回答率：208/217 件⇒95.9%

※括弧内は回答数/R6 卒業確定数で回答率を計算している。

※グラフはすべて 3 学科合計で出力されている。

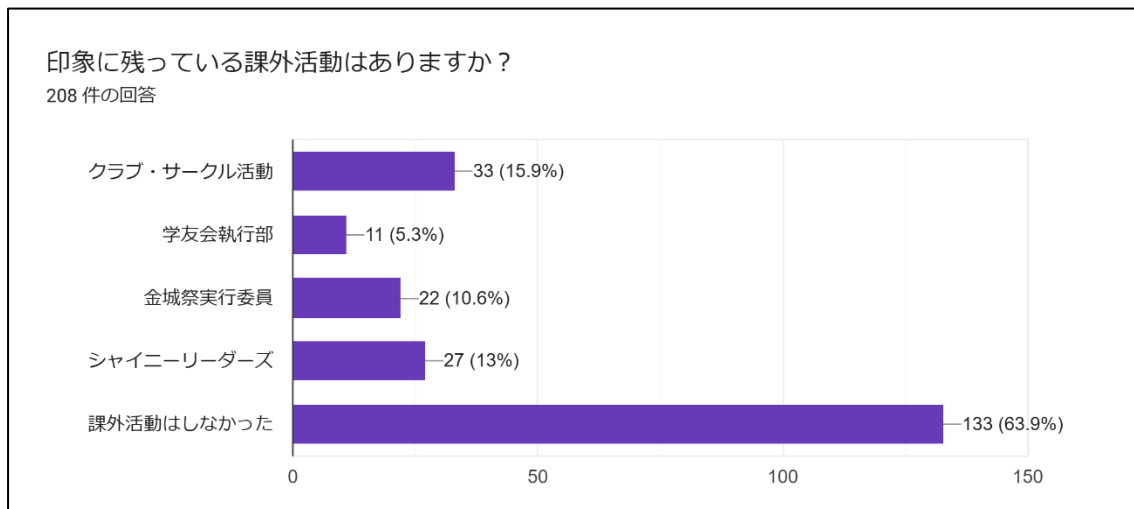
【1. 満足度調査結果】

1) 積極的に学んだか



- **幼児教育**: 積極的に勉強に取り組めたと感じている学生が多い（「とてもあてはまる」「ややあてはまる」が計 55 人）。
- **美術**: 授業への取り組みは「ややあてはまる」が最も多く 34 人。
- **ビジネス実務**: 約 90% の学生が「積極的に勉強に向かえた」と回答。（「とてもあてはまる」25 人、「ややあてはまる」50 人）。

2) 課外活動への参加

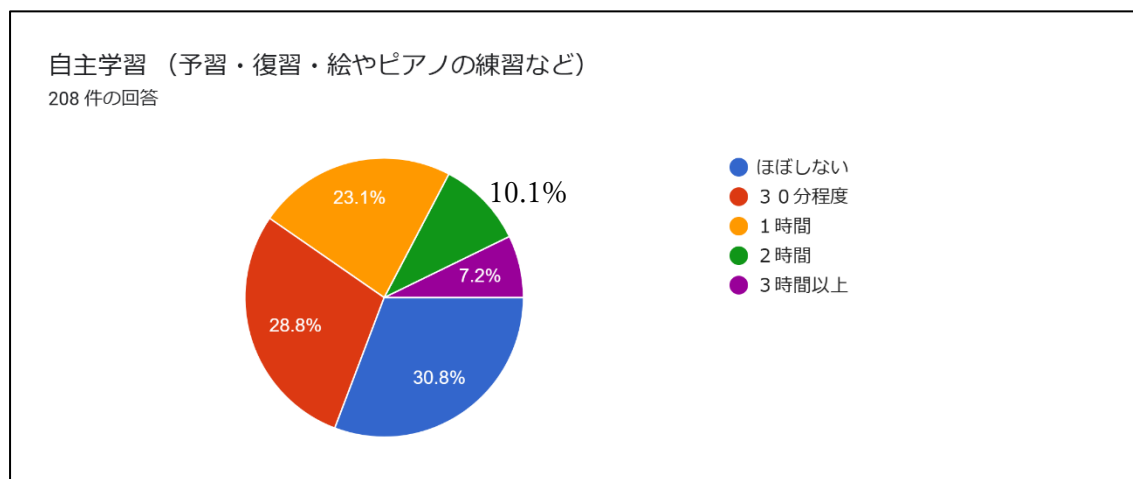
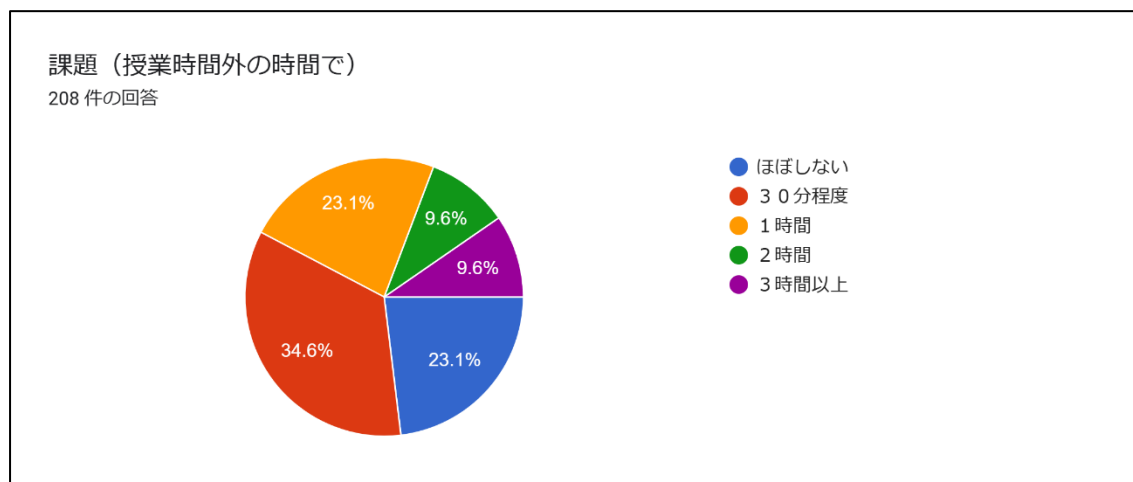


- **幼児教育**: 「課外活動はしなかった」と回答した学生が最も多い（41 人）。クラブ・サークル活動

に参加した学生もいる（5人）。

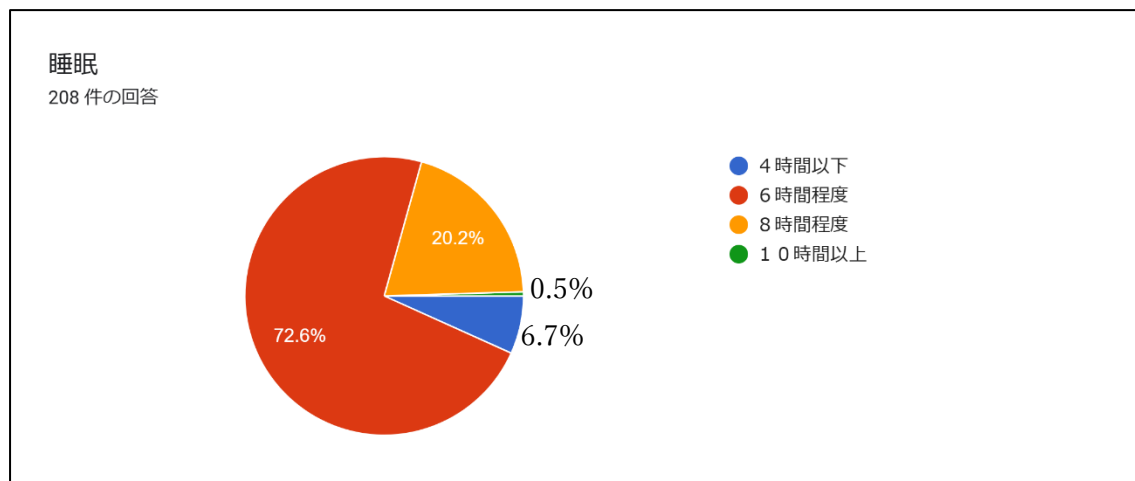
- **美術:** 最も多かったのは「クラブ・サークル活動」（11人）。「課外活動はしなかった」学生が38人と非常に多い。
- **ビジネス実務:** 約60%の学生（49人）が「課外活動をしなかった」と回答。

3) 学習時間・自主学習



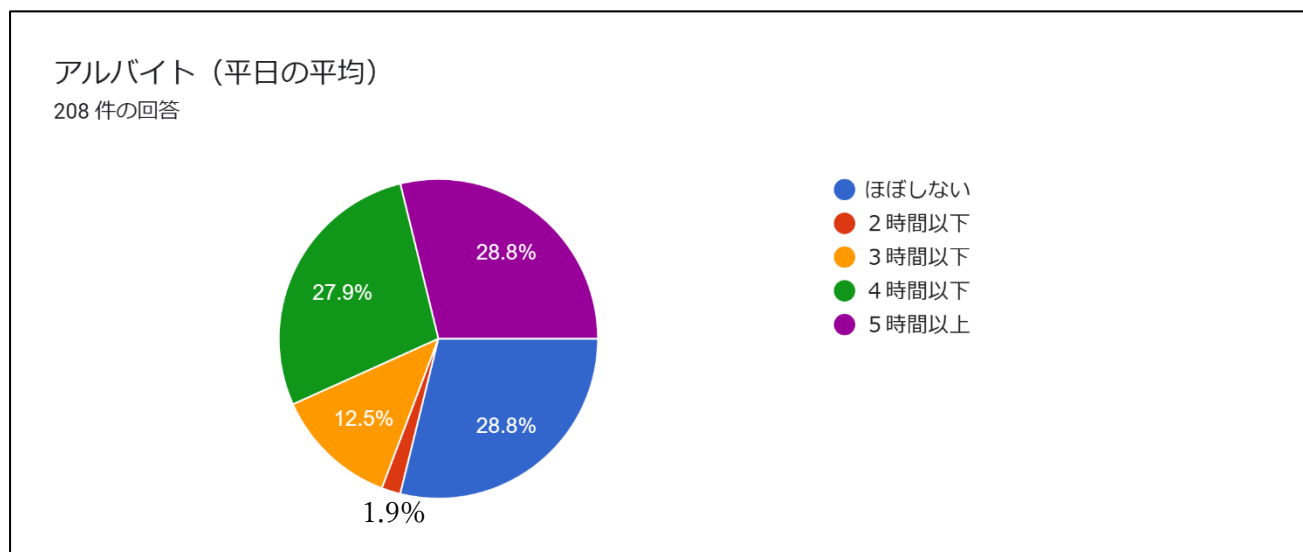
- **幼児教育:** 授業時間外の課題に30分程度時間を費やす学生が多い（23人）。自主学習に1時間程度時間を費やす学生が多い（27人）。
- **美術:** 課題にかける時間は「1時間」が19人とやや多い。自主学習時間は「30分程度」が18人とやや多い。
- **ビジネス実務:** 授業時間外の課題に30分程度時間をかける学生が多い（35人）。自主学習を「ほぼしない」と回答した学生が多い（51人）。

4) 睡眠時間



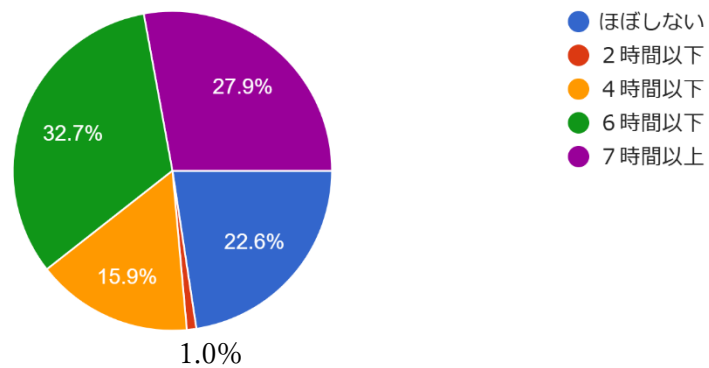
- 幼児教育: 睡眠時間は 6 時間程度の学生が多い (48 人)。
- 美術: 「6 時間程度」が 40 人と圧倒的に多い。
- ビジネス実務: 6 時間程度が 76% (63 人)。

5) アルバイトの状況



アルバイト（土・日・祝日の平均）

208 件の回答

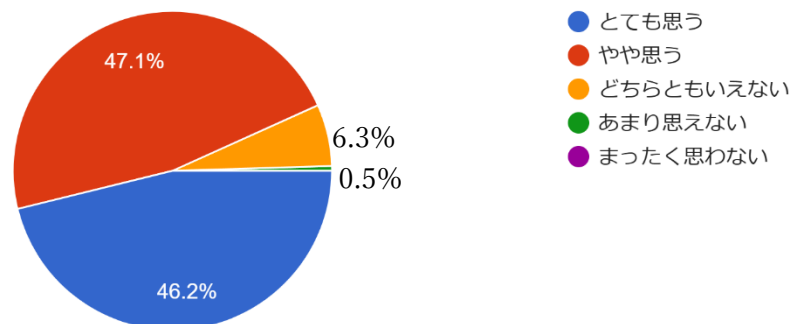


- **幼児教育:** 平日は 4 時間以下、土日祝日は 6 時間以下アルバイトをする学生が多い。
- **美術:** 平日は「ほぼしない」が 26 人と多い。土日祝日は「ほぼしない」が 22 人と多いが、「6 時間以下」が 17 人、「7 時間以上」が 16 人と比較的多い。
- **ビジネス実務:** 平日のアルバイト時間は 4 時間以下の学生が多い（25 人）。土日祝日のアルバイト時間は 6 時間以下の学生が多い（30 人）。

6) 学生生活の満足度

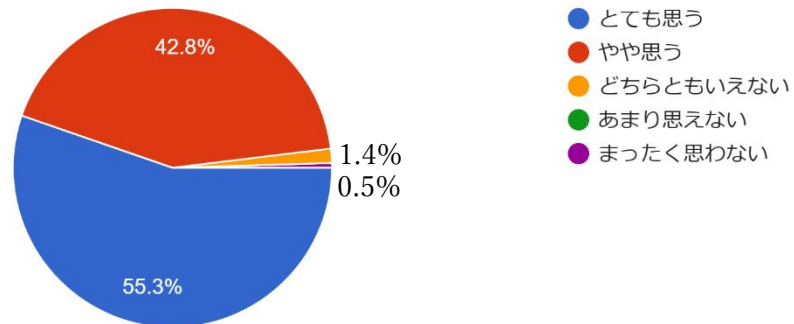
学びたい科目があった

208 件の回答



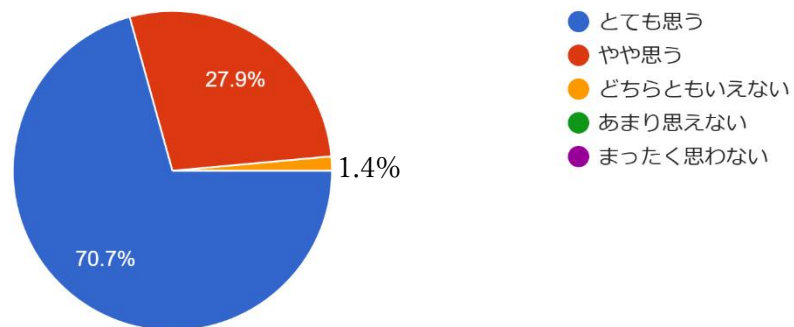
教養が身につく科目があった

208 件の回答



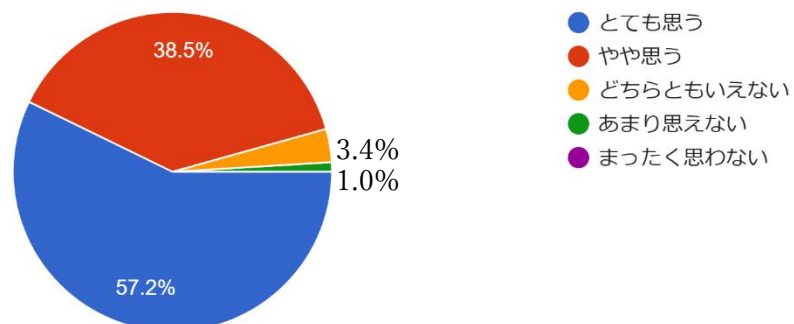
専門知識や技術が身につく授業があった

208 件の回答



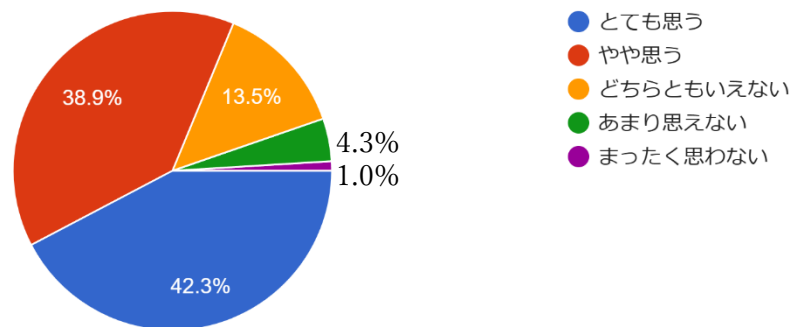
幅広く様々なことを学べる科目があった

208 件の回答



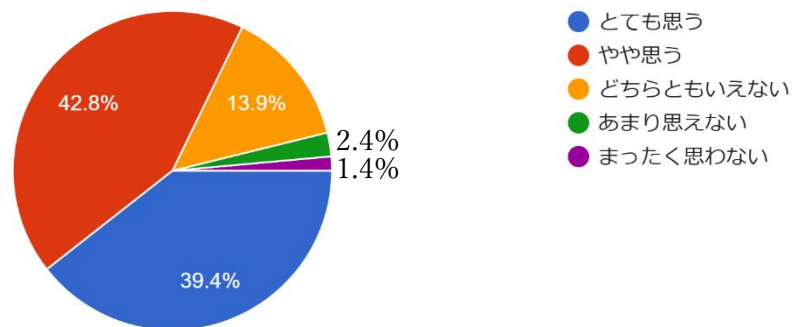
授業外でも親しいコミュニケーションをとれる教職員がいた

208 件の回答



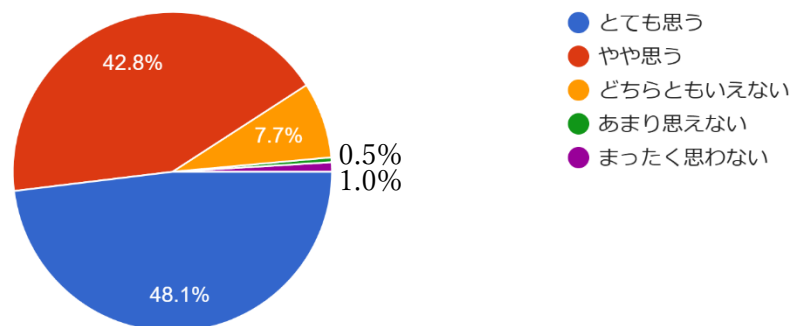
自分の視野を広げるきっかけとなる教職員がいた

208 件の回答



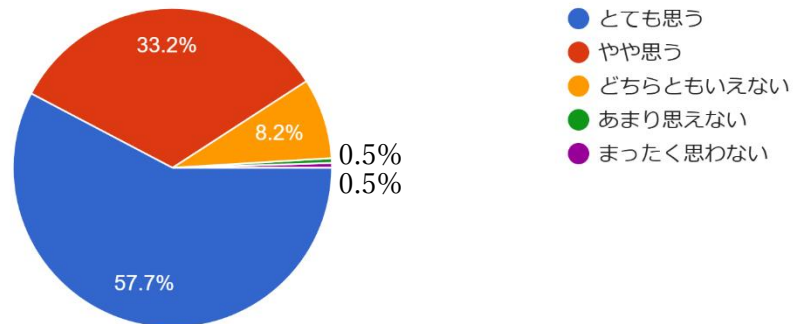
学生のことを思って言うべきことは言う教職員がいた

208 件の回答



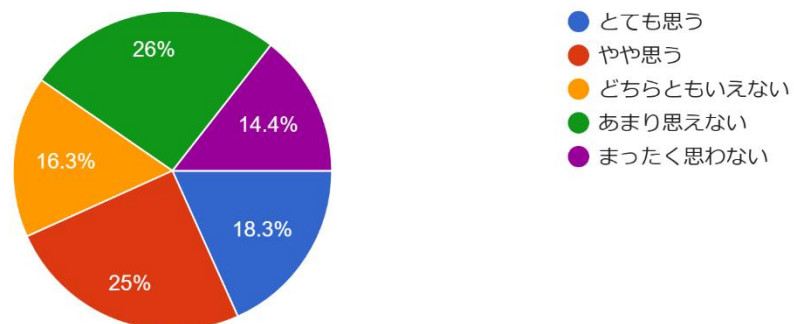
事務職員の窓口対応は適切であった

208 件の回答



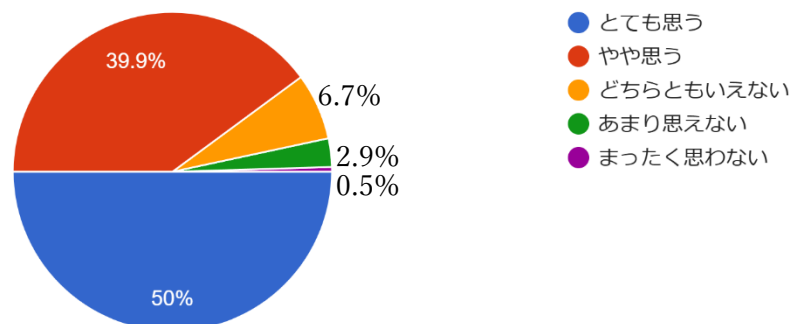
他学科の学生と交流する機会があった

208 件の回答



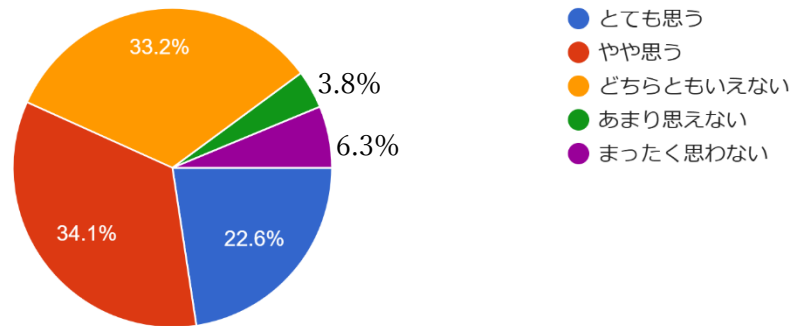
体育祭や金城祭などイベントは楽しかった

208 件の回答



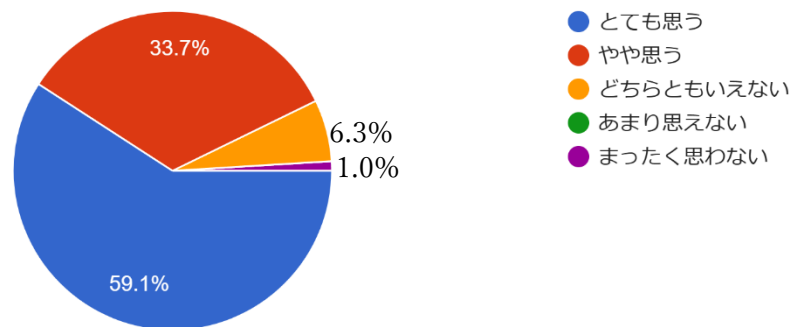
クラブ・サークルや学友会、シャイニーリーダーズの活動が充実していた

208 件の回答



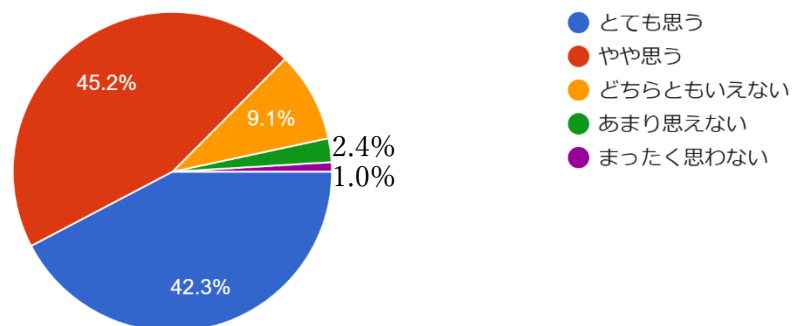
楽しい学生生活を送れた

208 件の回答



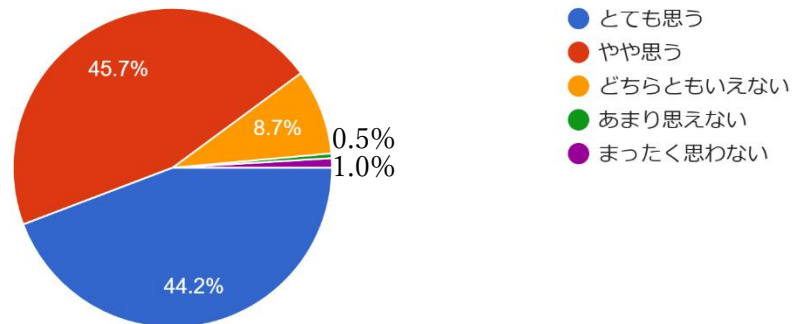
授業などを通して就職支援が受けられた

208 件の回答



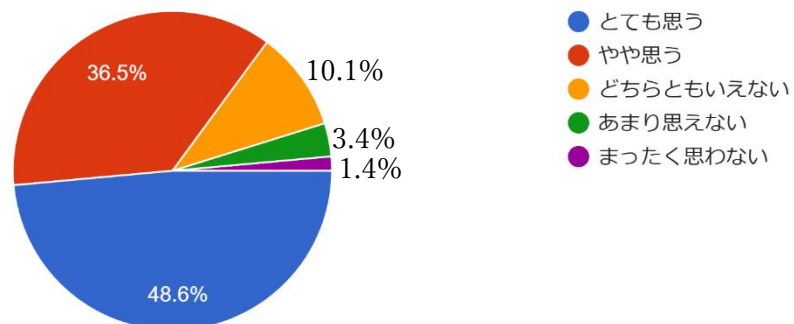
求人情報が適切に提供された

208 件の回答



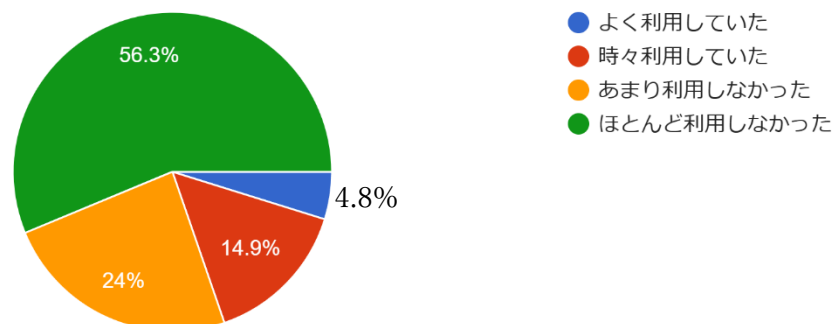
進路について親身になってくれる教職員がいた

208 件の回答



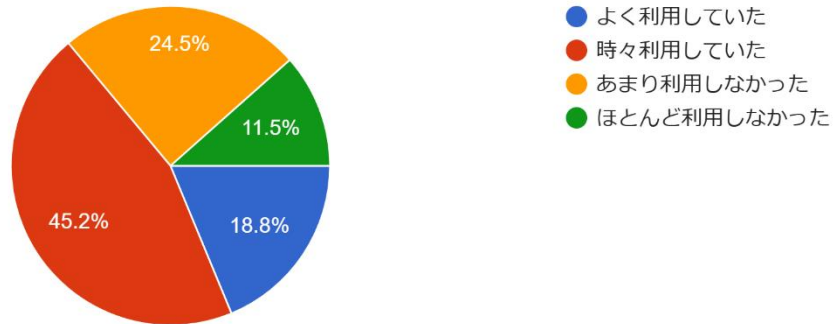
図書館をどれくらい利用しましたか？

208 件の回答



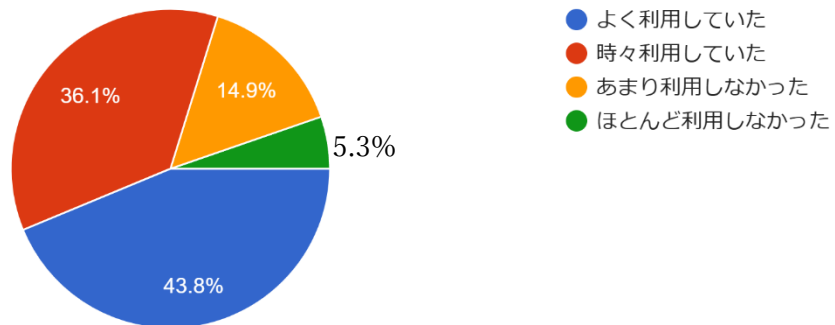
就職支援室をどれくらい利用しましたか？

208 件の回答



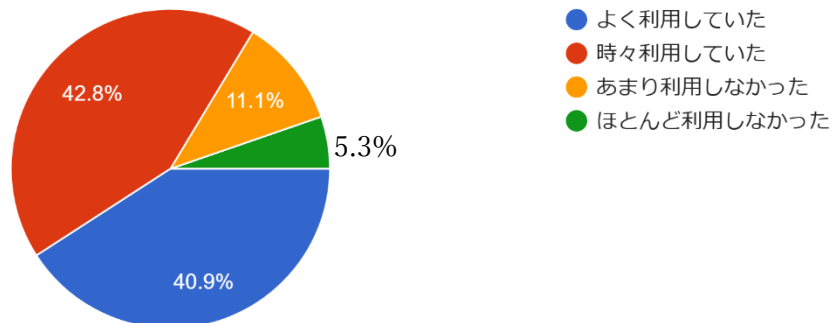
食堂をどれくらい利用しましたか？

208 件の回答



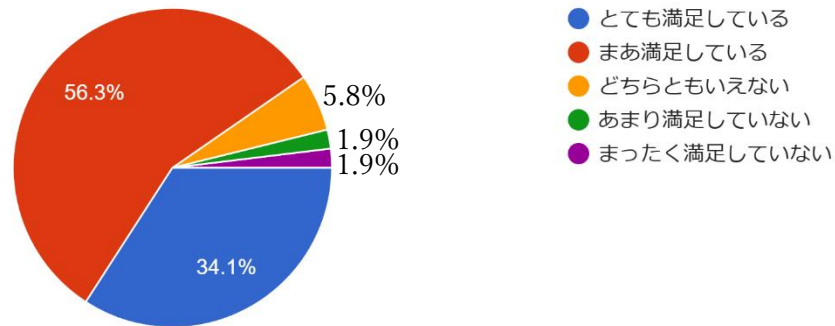
売店をどれくらい利用しましたか？

208 件の回答



総合的にみた本学の満足度

208 件の回答



○授業：

- ・ **幼児教育：** 学びたい科目があったと感じている学生が多い（「とても思う」「やや思う」が計 59 人）。教養、専門知識、技術、幅広い知識を学べる科目があったと感じている学生が多い。
- ・ **美術：** 「専門知識や技術が身につく授業があった」に「とても思う」が 46 人と非常に多い。
- ・ **ビジネス実務：**
 - ・ 学びたい科目があったと感じた学生 … 76 人（「とても思う」39 人、「やや思う」37 人）
 - ・ 教養が身につく科目があったと感じた学生 … 83 人（「とても思う」50 人、「やや思う」33 人）
 - ・ 専門知識や技術が身につく授業があったと感じた学生 … 81 人（「とても思う」57 人、「やや思う」24 人）
 - ・ 幅広く学べる科目があったと感じた学生 … 80 人（「とても思う」56 人、「やや思う」24 人）
 - ・ 授業内容や開講時期について意見・要望がある人は少数（78 人が無回答）。

○教職員とのコミュニケーション：

- ・ **幼児教育：** 教職員とのコミュニケーションやサポート体制に満足している学生が多い。事務職員の対応も適切であると感じている学生が多い。
- ・ **美術：** 多くの項目で「とても思う」「やや思う」の回答が多い。
- ・ **ビジネス実務：** 多くの学生が以下のように感じている。授業外のコミュニケーション：59 人。視野を広げるきっかけ：61 人。必要なことを伝える教職員：74 人。事務職員の対応：75 人。教職員の対応について意見・要望を持つ学生はほとんどおらず（無回答 80 人）。

○学生生活：

- ・ **幼児教育：** 教職員とのコミュニケーションやサポート体制に満足している学生が多い。事務職員の対応も適切であると感じている学生が多い。イベントやクラブ活動を楽しめたと感じている学生が多い。全体的に楽しい学生生活を送れたと感じている学生が多い。
- ・ **美術：** 「楽しい学生生活を送れた」に「とても思う」が 37 人と多い。
- ・ **ビジネス実務：** 楽しい学生生活を送れたと感じている学生が多い（「とても思う」49 人、「やや思う」27 人）。授業以外の課外活動について意見・要望がある人はほとんどいない（81 人が無回答）。

○就職支援：

- ・ **幼児教育:** 授業を通して就職支援を受けられたと感じている学生が多い。求人情報が適切に提供され、教職員からの親身なサポートを受けられたと感じている学生が多い。
- ・ **美術:** 多くの項目で「とても思う」「やや思う」の回答が多い。
- ・ **ビジネス実務:** 多くの学生が、授業を通じた就職支援を実感しており（73 人）、求人情報の提供も適切だったと感じている（77 人）。また、進路について親身になってくれる教職員がいたと感じている学生も多い（68 人）。さらに、就職支援に対する意見・要望を持つ学生はほとんどおらず（79 人が無回答）、全体的に満足度が高いことがうかがえる。

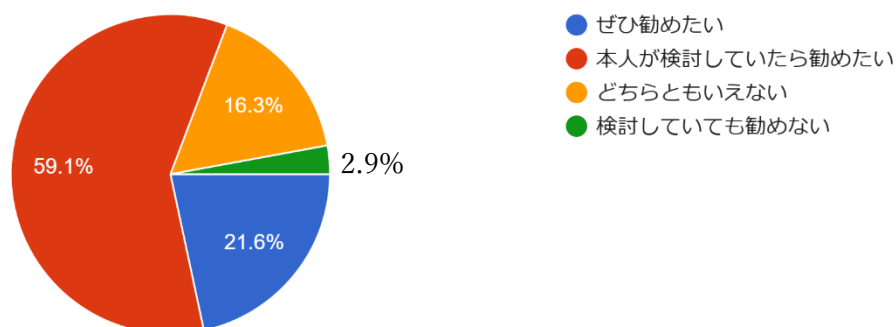
○施設利用：

- ・ **幼児教育:** 図書館、就職支援室、食堂、売店は、時々またはあまり利用しなかった学生が多い。
- ・ **美術:** 「売店」を「よく利用していた」が 35 人と多い。
- ・ **ビジネス実務:** 多くの学生が図書館をほとんど利用していない（69 人）。一方で、就職支援室は時々利用する学生が多く（44 人）、食堂はよく利用する学生が比較的多い（41 人）。また、売店は時々利用する学生が一定数おり（36 人）、施設・設備に関する意見・要望を持つ学生はほとんどいない（無回答 80 人）。

7) 本学を勧めたいか

自分の弟・妹や出身校の後輩に本学を勧めたいと思いますか？

208 件の回答



- ・ **幼児教育:** 大学の総合的な満足度は高い（「とても満足している」「まあ満足している」が計 59 人）。自分の出身校の後輩に大学を勧めたいと考えている学生が多い（「ぜひ勧めたい」「本人が検討していたら勧めたい」が計 54 人）。
- ・ **美術:** 「本人が検討していたら勧めたい」が 41 人と非常に多い。
- ・ **ビジネス実務:** 自分の弟・妹や出身校の後輩に本学を勧めたい学生が多い（「本人が検討していたら勧めたい」41 人、「ぜひ勧めたい」19 人）。

○自由記述意見：

- ・ **幼児教育:** 授業内容や開講時期、教職員の対応、施設設備などに関する意見や要望が寄せられている。例として、冬休みの時期に関する要望や、授業中の私語への対応に関する要望、購買施設の設置に関する要望などがある。
- ・ **美術:** 教職員や事務職員の対応に関する具体的な不満の声がある。施設・設備に関する具体的な

改善要望がある。

- **ビジネス実務:** 学べない科目を学べるようにしてほしいという要望がある。もっと授業にディープな内容を求める意見などがある。

<総評>

各学科において、授業への積極性や専門知識の習得に対する評価は高く、特に「楽しい学生生活を送れた」と感じている学生が多いことが分かった。一方で、課外活動への参加率は低く、自主学習の習慣がついていない学生も一定数いることが課題として挙げられる。また、ビジネス実務学科では「本学を勧めたい」と考える学生が比較的少ない点が特徴的である。今後の改善点として、学習支援の強化や学生の積極的な活動を促す施策が求められる。

【2. 学習成果の分析結果】

2-1. 幼児教育学科の学習成果分析

幼児教育学科では、次の 13 種で学習成果を評価している。各自、自己評価で 1 (低い)～4 (高い)を入力してもらった。

【人間性 A】自分の性格や行動について見つめ、理解している。

【人間性 B】自分をよくしていきたいという気持ちがあり、具体的な目標を持っている。

【人間性 C】多様な考えや価値観を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。

【社会性 A】社会人としての常識・教養を身につけている。

【社会性 B】保育・幼児教育を取り巻く様々な課題に対して興味・関心を持っている。

【社会性 C】他者と関わる場に参加し協働できる。

【社会性 D】聞いたこと、学んだことなどをまとめ、表現することができる。

【専門性 A】保育者としての責務と倫理について理解している。

【専門性 B】子どもの心身の発達や対応についての基本的な知識を持っている。

【専門性 C】子どもの心身の発達支援や対応についての基本的な技能を持っている。

【専門性 D】教育・保育に必要な知識・技能を高める努力をしている。

【専門性 E】その場に応じた柔軟な対応ができる。

【専門性 F】授業や実習の経験から、自分の課題を見出すことができる。

アンケート調査を行った結果は、以上の通りである。

評価項目	人間性 A	人間性 B	人間性 C	社会性 A	社会性 B	社会性 C	社会性 D	専門性 A	専門性 B	専門性 C	専門性 D	専門性 E	専門性 F
平均	3.2	3.0	3.1	3.1	3.2	3.1	2.8	3.0	3.0	3.0	3.0	2.8	3.0
分散	0.2	0.4	0.3	0.4	0.4	0.5	0.5	0.4	0.4	0.4	0.4	0.6	0.4
標準偏差	0.5	0.6	0.6	0.6	0.7	0.7	0.7	0.7	0.6	0.6	0.6	0.7	0.6

このアンケート結果を分析すると、以下の通りである。

1. 全体的な傾向

全体的に自己評価の平均は 2.5～3.3 の範囲に収まっており、極端に低い評価の項目はない。しかし、3.0 を超えている項目と 2.5 前後の項目が分かれており、評価にばらつきがあることがわかる。特に「人間性」や「専門性」に関する項目は比較的高い評価を得ているのに対し、「社会性」に関する項目には低めの評価が多い。

2. 項目ごとの特徴

(1) 人間性

- 全体的に評価が高め（平均 2.9～3.3）。
- 「人間性 C（多様な価値観を受け止める）」が最も高い（3.3）。
- 「人間性 B（目標に向けて努力する）」がやや低め（2.9）。

(2) 社会性

- 全体的に評価が低め（平均 2.5～3.0）。
- 「社会性 C（他者との関わりを大切にすること）」が 3.0 と比較的高いが、それ以外は 2.5～2.9 と低調。
- 「社会性 D（新しい提案をする）」「社会性 E（計画的に進める）」「社会性 G（わかりやすく伝える）」が 2.5 と最も低い。

(3) 専門性

- 技術的な評価は中程度（平均 2.6～2.9）。
- 「専門性 A（画力・造形力・デザイン力）」が 2.9 と比較的高い。
- 「専門性 B（デジタル機器の活用）」は 2.7 とやや低め。

3. ばらつきの分析

- **最もばらつきが大きいのは「社会性 B（文章での表現）」**（標準偏差 0.9）。
→ 自己評価の個人差が大きく、得意な学生と苦手な学生の差が目立つ。
- **ばらつきが比較的大きいのは「社会性 C」「社会性 F」「社会性 G」**（標準偏差 0.8）。
→ 他者との関わりや社会的な視点に関する評価が分かれている。
- **ばらつきが小さいのは「人間性 A」「人間性 C」「専門性 D」**（標準偏差 0.6）。
→ これらの項目は全体的に安定した自己評価を受けている。

4. 改善すべき点

- **「社会性」の向上が課題**
 - 特に「社会性 D（新しい提案）」「社会性 E（計画性）」「社会性 G（伝える工夫）」が低い。
 - グループワークやディスカッションを通じて、意見を伝える機会を増やすことが有効。
 - 計画的に物事を進める力を育成するため、プロジェクトベースの学習を取り入れるとよい。
- **「文章での表現力」に個人差**
 - 「社会性 B（文章で表現する）」のばらつきが最も大きいため、ライティングスキルの指導を強化する。
 - 短い文章を書く練習や、相互フィードバックを取り入れると良い。
- **「デジタル機器の活用（専門性 B）」の底上げ**
 - 美術系の学生の中にはデジタル技術に苦手意識を持つ者もいる可能性がある。
 - デジタルツールを活用する実践的な課題を増やすことで、スキル向上を図る。

5. 総評

全体的に「人間性」に関する評価は高く、自己理解や多様な価値観を尊重する姿勢は身についている。一方で、「社会性」の評価は低めであり、特に「計画性」「新しい提案」「伝える力」に課題がある。専門性については、基礎的な技術はあるものの、「デジタル機器の活用」がやや低調であり、強化が望まれる。

2-2. 美術学科の学習成果分析

美術学科では、次の 15 種で学習成果を評価している。各自、自己評価で 1 (低い)～4 (高い)を入力してもらった。

- 【人間性 A】自分の得意なこと・苦手なことを客観視できる。
- 【人間性 B】具体的な目標にむけ、自分から努力することができる。
- 【人間性 C】多様な考え・価値観を受け止めることができる。
- 【人間性 D】自分と向き合い、自己の考え・表現を深めていくことができる。
- 【社会性 A】常識や教養の必要性を理解し身につけている。
- 【社会性 B】自分の意見を文章で表現できる。
- 【社会性 C】他者との関わりを大切にし、協力することができる。
- 【社会性 D】既存の考え方・手法に対して新しい提案をすることができる。
- 【社会性 E】自らの行動を見直し、計画的にものごとをすすめることができる。
- 【社会性 F】就職や自活にむけて考え、社会に役立つ視点を持つことができる。
- 【社会性 G】自分の考えをわかりやすく伝える工夫ができる。
- 【専門性 A】画力・造形力・デザイン力等、各分野に必要な技術が身についている。
- 【専門性 B】デジタル機器を使い作品制作や情報収集・発信ができる。
- 【専門性 C】色彩や構図、レイアウト等の知識をもち、論理的に考えることができる。
- 【専門性 D】美術に関する歴史や現代の動向を知り、幅広い視野をもつことができる。

アンケート調査を行った結果は、以上の通りである。

評価項目	人間性 A	人間性 B	人間性 C	人間性 D	社会性 A	社会性 B	社会性 C	社会性 D	社会性 E	社会性 F	社会性 G	専門性 A	専門性 B	専門性 C	専門性 D
平均	3.1	2.9	3.3	3.1	2.9	2.6	3.0	2.5	2.5	2.6	2.5	2.9	2.7	2.6	2.9
分散	0.3	0.7	0.4	0.6	0.5	0.8	0.7	0.5	0.7	0.8	0.7	0.5	0.7	0.5	0.5
標準偏差	0.6	0.8	0.6	0.8	0.7	0.9	0.9	0.7	0.8	0.9	0.8	0.7	0.8	0.7	0.7

このアンケート結果を分析すると、以下の通りである。

1. 全体的な傾向

- **最も評価が高い項目:**
 - 【人間性 C】多様な考え・価値観を受け止めることができる (平均 3.3)
 - 【人間性 A】自分の得意なこと・苦手なことを客観視できる (平均 3.1)
 - 【人間性 D】自分と向き合い、自己の考え・表現を深めていくことができる (平均 3.1)
 - → **自己認識力や多様な価値観の受容は高い傾向がある。**
- **最も評価が低い項目:**
 - 【社会性 D】既存の考え方・手法に対して新しい提案をすることができる (平均 2.5)

- 【社会性 E】自らの行動を見直し、計画的にものごとをすすめることができる（平均 2.5）
- 【社会性 G】自分の考えをわかりやすく伝える工夫ができる（平均 2.5）
- → 計画性・論理的思考・創造的な提案力の面でやや課題が見られる。

2. 専門性の評価

- 【専門性 A】画力・造形力・デザイン力等の技術（平均 2.9）
- 【専門性 B】デジタル機器を使い作品制作や情報収集・発信（平均 2.7）
- 【専門性 C】色彩や構図、レイアウト等の知識（平均 2.6）
- 【専門性 D】美術に関する歴史や現代の動向（平均 2.9）
- 専門スキルは全体的に標準的だが、デジタル機器の活用や論理的思考の分野にやや課題あり。

3. 社会性の評価

- 【社会性 B】自分の意見を文章で表現できる（平均 2.6）
- 【社会性 G】自分の考えをわかりやすく伝える工夫ができる（平均 2.5）
- 表現力（特に文章表現や伝達力）の向上が必要。
- 【社会性 F】就職や自活に向けた社会的視点（平均 2.6）
- 社会に役立つ視点を持つことも課題。

4. ばらつき（標準偏差）

- 最もバラつきが大きいのは【社会性 B】（標準偏差 0.9）、【社会性 C】（標準偏差 0.9）、【社会性 F】（標準偏差 0.9）
- 学生ごとの個人差が大きく、特に文章表現・協力意識・社会的視点の習得に差がある。
- 逆にバラつきが小さいのは【人間性 A】【人間性 C】（標準偏差 0.6）
- 多様な価値観を受け入れる力や自己認識力は比較的均質。

5. 改善策

1. 論理的思考力を鍛える課題の導入
 - 文章による意見表現やディスカッションの機会を増やす。
2. 計画的に制作を進める指導
 - プロジェクトのスケジュール管理を実践する。
3. デジタルスキルの強化
 - デジタルツールを活用した制作や発信の機会を増やす。
4. 社会性向上のためのキャリア教育
 - 就職や社会との関わりを意識した課題・発表を行う。

6. まとめと今後の改善点

強み

- 自己認識力や多様な価値観の受容に優れている。
- 画力や造形力など基礎技術面では標準的な評価。

課題

- 計画性や新しい提案をする力が不足。
- 文章表現力や論理的思考を高める必要がある。
- 社会への適応力（就職・自活を見据えた行動）が弱い。

2-3. ビジネス実務学科の学習成果分析

ビジネス実務学科では、次の 14 種で学習成果を評価している。各自、自己評価で 1 (低い)～4 (高い)を入力してもらった。

【人間性 A】自分の性格、長所・短所をよく理解している。

【人間性 B】自分をよくしていきたいという気持ちがあり、具体的な目標も持っている。

【人間性 C】多様な考えや価値観を尊重し、他者との良好な信頼関係を築いていくことができる。

【社会性 A】社会人としての常識・教養を身につけている。

【社会性 B】日頃から、知人と挨拶ができ、仕事や勉学で協力することができるコミュニケーション能力がある。

【社会性 C】聴いたこと学んだことを文章にまとめることができる。

【社会性 D】様々な課題に取り組み、活用力や創造的な思考力を身につけている。

【専門性 A】ビジネスワークの基本を理解している。

【専門性 B】簿記・会計の基本を理解している。

【専門性 C】基本的な情報技術の知識があり、ワープロソフト・表計算ソフトを使うことができる。

【専門性 D】ビジネスコミュニケーションの基本を理解し、プレゼンテーションができる。

【専門性 E】英語を使ってコミュニケーションをとることができる。

【専門性 F】専門的な知識や技能を身につけている（資格取得を含む）。

【専門性 G】専門的な知識や技能を柔軟に活用することができる（資格取得を含む）。

アンケート調査を行った結果は、以上の通りである。

評価項目	人間性 A	人間性 B	人間性 C	社会性 A	社会性 B	社会性 C	社会性 D	専門性 A	専門性 B	専門性 C	専門性 D	専門性 E	専門性 F	専門性 G
平均	3.3	3.1	3.3	3.2	3.3	3.0	3.0	3.2	2.6	2.8	3.0	2.3	3.1	2.9
分散	0.3	0.5	0.3	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.5	0.5	0.4	0.8	0.4	0.5
標準偏差	0.5	0.7	0.6	0.6	0.7	0.6	0.6	0.6	0.7	0.7	0.6	0.9	0.7	0.7

このアンケート結果を分析すると、以下の通りである。

1. 全体的な傾向

- **全体的に 3.0 以上の評価が多く**、学生は自身のスキルや能力について比較的ポジティブに自己評価している。
- **最も評価が高いのは「人間性 A（自己理解）」と「人間性 C（信頼関係の構築）」の 3.3。**自己理解や他者との関係構築に自信を持っている学生が多い。最も低い平均値（2.8）は「社会性 D（表現能力）」「専門性 E（柔軟な対応）」。
- **最も評価が低いのは「専門性 E（英語）」の 2.3。**標準偏差 0.9 とバラつきが大きく、英語力に対する自己評価は個人差が大きい。

2. 項目ごとの特徴

(1) 人間性

- ・ 「人間性 A（自己理解）」や「人間性 C（信頼関係）」の平均値は 3.3 で、比較的高い評価。
- ・ 「人間性 B（向上心と目標設定）」は 3.1 とやや低め。標準偏差 0.7 と個人差があり、目標を明確に持っている学生とそうでない学生に分かれる傾向がある。

(2) 社会性

- ・ 「社会性 A（社会人の常識）」は 3.2、「社会性 B（挨拶・協力）」は 3.3 と高め。
→ 社会人としての基礎的なマナーやコミュニケーションスキルは良好。
- ・ 「社会性 C（文章化能力）」と「社会性 D（課題解決力）」は 3.0 で、やや低め。
→ 情報を整理して伝える力や、創造的な思考力の向上が課題かもしれない。

(3) 専門性

- ・ 「専門性 A（ビジネスワーク）」3.2、「専門性 D（プレゼン）」3.0 と平均的な評価。
- ・ 「専門性 B（簿記・会計）」2.6、「専門性 C（情報技術）」2.8 とやや低め。
→ 数値管理やデジタルスキルの習得が課題。
- ・ 「専門性 E（英語）」は 2.3 で最も低く、英語に対する苦手意識が強い可能性。
- ・ 「専門性 F（資格取得の知識）」3.1、「専門性 G（資格の活用力）」2.9。
→ 資格取得を目指しているが、それを実際に活用する意識はやや低め。

3. ばらつきの分析

- ・ 標準偏差が最も大きいのは「専門性 E（英語）」0.9 → 英語力に関する自己評価に個人差が大きい。
- ・ 「人間性 A（自己理解）」や「専門性 A（ビジネスワーク）」は標準偏差が小さい（0.5～0.6）
→ ほとんどの学生が同じようなレベルの自己認識を持っている。

4. 改善すべき点

- ・ **英語学習のサポート強化**（実践的な会話やリスニングの機会を増やす）。
- ・ **数値管理スキル向上**（簿記や表計算ソフトの演習を増やす）。
- ・ **文章作成力と創造的思考のトレーニング**（レポート作成やディスカッションを強化）。

5. 総評

- ・ **強み**：自己理解や他者との関係構築、社会的マナーは良好。
- ・ **課題**：英語、簿記・会計、情報技術の習得がやや弱い。文章化能力や創造的思考力も改善の余地あり。

<今後の教育改善に向けて>

学習成果の自己評価結果を客観的に定量評価するため、次のアプローチを取る。まず、各項目の平均値・標準偏差を分析し、全体傾向やばらつきを把握する。次に、項目間の相関分析を行い、関連性を明確にする。さらに、分布の特性を確認し、高評価・低評価の傾向を分類。必要に応じて、外部評価やルーブリックを導入し、自己評価との比較を行う。最後に、これらの分析をもとに、具体的な教育改善策を立案し、学習成果の向上を図る必要がある。

Step 1. データの信頼性と妥当性の確認

Step 2. 客観的なデータの追加（成績結果との比較、教員評価との照合、ルーブリック等）

Step 3. 定量分析の実施（相関分析、クラスター分析、時系列分析：1 年次と 2 年次）

Step 4. 学習プログラムの改善（特定の課題に対する補完授業の導入など）

Step 5. 継続的な評価の仕組み作り（ポートフォリオ評価の導入、定期的なフィードバック）